

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	英語における感情表出構文のメカニズムの解明				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	田村 敏広
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	田村 敏広

講演題目	英語における感情表出構文のメカニズムの解明
------	-----------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

本研究は、英語の Get 受動文 (e. g. The grant got cancelled!) と、Hot News Perfect (e. g. The train station has burned to the ground.) という二つの感情表出構文を対象として、それら形式に表出される話し手の感情がどのように生み出されるのか、その言語内的メカニズムを解明することを目的とする。この目的の達成のために、以下の3点の研究フェイズを設定した。

- [1] 英語のGet受動文の感情表出と意味性質の分析
- [2] 英語のHot News Perfectの感情表出と意味性質の分析
- [3] 認知言語学的視点からの感情表出メカニズムの特定

[1]、[2]では、まず、それぞれの構文に表出される感情について観察を行った。Get 受動文では、例えば、「後悔」や「残念」、「非難」「驚き」「喜び」など様々な感情を表出する。また、Hot News Perfectでは、主に「驚き」の感情が表出されることが明らかとなった。次に、これら形式の意味性質を分析すると、完了と結果という両形式ともに類似したアスペクト性をもつことが分かった。つまり、両形式は、話し手が構文使用においてどのような視点から捉えているか、という事態認識構造が類似していることを意味する。これを踏まえ、坪本 (2007, 2009) の視点論を基盤として、両形式の事態認識構造 (視点) と感情表出の関わりについて考察した。Be 受動文や基本的用法の現在完了形は、話し手は現在時 (発話時) から事象を「事後的」にながめ、現在時において「意味づけ」を行うソトの視点、いわば客観的視点をとっているのに対して、Get 受動文と、現在完了形の一用法となる Hot News Perfect は、状況に密着して状況と共に動き、状況の変化に参加するような〈今、ここ〉における状況の当事者的捉え方、すなわち、〈同時経験的〉であることを基本とするウチの視点、すなわち主観的視点をとっている。このようなウチの視点では、その同時経験性から、事態に対する話し手の感情が表出されやすいのだと考えられる。つまり、このような両形式の事態認識のあり方こそが、話し手の感情表出の基盤となっていると結論づけられる。

今後、より多くの感情表出構文を分析することで、英語における言語的感情表出の手法を明らかにしていきたい。また、日本語の感情表出構文も視野に入れることで、言語によって話し手の感情を表出するための言語普遍的な共通メカニズムが少しずつ見えてくるはずである。また、このような構文研究で得られた知見を英文法の授業等に還元していく予定である。